

(様式第9)

保健衛生大学病院 14号
平成22年10月4日

東海北陸厚生局長 殿

開設者名 学校法人 藤田学
理事長 山路正

藤田保健衛生大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	233人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	523人	133人	550.3人	看護補助者	179人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	6人	12.9人	理学療法士	29人	臨床検査技師	107人
薬剤師	65人	0人	65.0人	作業療法士	17人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	24人	1人	24.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,122人	12人	1,130.1人	臨床工学技士	31人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	13人	2人	14.3人	栄 養 士	9人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	2人	事務職員	221人
管理栄養士	24人	0人	24.0人	診療放射線技師	75人	その他の職員	69人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たりの平均入院患者数	1,147.1人	11.9人	1,159.0人
1日当たりの平均外来患者数	1,883.0人	84.1人	1,967.1人
1日当たりの平均調剤数	2,323 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的冠動脈形成術	取扱患者数	355 人
当該医療技術の概要 身体に大きな傷をつけることなく狭くなった冠動脈を拡げるために行う治療法で、手術は足の付け根の大腿動脈または腕の橈骨動脈や上腕動脈から「カテーテル」という細い管を入れ、冠動脈の狭くなったところまで進めて治療を行う。先端に風船がついたカテーテルを冠動脈の狭くなった部分に挿入し、そこで風船を膨らませることにより血管を押し拡げる治療である。ほとんどの症例で、「ステント」という小さな網目状の金属の筒を血管に置くことにより、狭くなった部分を筒が支えて血管の中が広がった状態を保持する。これらの治療のため、OCT (Optical Coherence Tomography) を導入した。OCT とは近赤外線を用いた新しい画像診断システムで、特徴は高い画像分解能にある。OCT を用いて狭窄部のより詳細な形態評価を行い、最適な治療を行っている。			
医療技術名	カテーテルアブレーション	取扱患者数	86 人
当該医療技術の概要 カテーテルという細い管の先から高周波電流を流して、接している生体組織を小さく焼き切ることを意味する。カテーテルの先には心電図を計測するための電極がついていて、それで心臓の内壁の心電図を計測し、心臓の異常な部分を示す「マップ」を作る。異常な部分にカテーテルの先の電極から高周波電流を流し、カテーテルの先に触れているわずかな領域の心臓組織だけが電氣的に焼灼する。			
医療技術名	埋め込み型除細動器	取扱患者数	29 人
当該医療技術の概要 鎖骨の下の胸部に植込み、全身麻酔もしくは静脈注射で眠り薬を入れて眠っている間に手術を行う。手術時間は約 3 時間である。皮下に植込み型除細動器が入るポケットを作ります。通常は左の鎖骨の下へ走っていく静脈に沿ってリード線を心臓の中に挿入し、心臓の内壁にリード線を接触固定する。心臓側のリード線の反対側に植込み型除細動器を接続し皮下のポケットにしまっ、切開した皮膚を縫合する。			
医療技術名	TRH 低用量間歇療法	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 通常脊髄小脳変性症の治療としては、酒石酸プロチレリン (TRH) 0.5~2mg の筋肉内または静脈内注射を 14 日間連日施行後、2~3 週間の休薬期間をおき、以後これを反復することが薦められている。しかし、連日投与 2w をしたあとに休薬してしまうとその間に効果が減弱してしまうことから、低用量の間歇投与 (酒石酸プロチレリン 1mg 3 日に 1 回筋注 合計 14 回) を休薬期間をもたず継続投与する方法である。効果判定には①臨床症候 ②髄液中カテコラミン代謝産物の測定値 ③髄液中神経栄養因子濃度 ④脳血流 SPECT (1 2 3 I-IMP) について 14 回 TRH 投与の前後で比較検討する。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 先天性腎不全の乳児 2 例に対し、腹膜透析導入を行った。出生後まもなく腹膜透析用カテーテルを留置し (小児外科)、腹膜透析を開始した。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症例に対し、肺動脈拡張を目的として一酸化窒素投与回路を人工呼吸器の回路に組み込み一酸化窒素吸入療法を行った。			
医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 新生児仮死例に対し、脳保護を目的として選択的脳低温療法を行った。脳温の指標は鼻咽頭温として、冷却用パッドを用いて脳温を選択的に 34℃に管理した。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肝移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肝不全の患児に対し患摘除し、ドナーの肝を移植する			
医療技術名	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 臍部の一つの穴から胆嚢を摘出する手技である。従来穴が4つであったが、一つだけのため、患者さんに低侵襲である。高度な鉗子操作が必要である。			
医療技術名	肝脾同時切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 胆嚢癌や広範囲胆管癌などの肝切除術と脾頭十二指腸切除術を同時に行うもので、多くは血管合併切除再建が行われる。侵襲の強い術式であり、高度な技術が必要とされる。			
医療技術名	脾機能温存手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 低悪性度の脾疾患に対して行われるもので、術後 QOL が向上する。十二指腸温存脾頭切除術、脾臓温存脾体尾部切除術、脾中央切除術などである			
医療技術名	ロボット (da Vinci) による食道手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 Da Vinci surgical system を使用した食道手術：胸腔鏡下手術の低侵襲性と、ロボットによる精緻な操作性を兼ね備えた手術法			
医療技術名	ロボット (da Vinci) による胃手術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 Da Vinci surgical system を使用した胃手術：腹腔鏡下手術の低侵襲性と、ロボットによる精緻な操作性を兼ね備えた手術法			
医療技術名	胸腔鏡下食道手術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 胸腔鏡下での食道癌手術：開胸手術と比較して患者様に対する侵襲が少ないと考えられる手術法			
医療技術名	腹腔鏡下手術	取扱患者数	125人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下での胃癌手術：開腹手術と比較して低侵襲であり、癌に対する根治性も遜色ないと考えられる手術法			
医療技術名	肺動脈血栓内膜摘除術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 血栓塞栓性肺高血圧症内科的治療に限界があり、外科的治療が有効である。18℃の超低体温として間欠的循環停止下に肺動脈の血栓内膜摘除術を行う。術後著明に呼吸循環動態が改善する。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	da Vinci ロボット支援肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 原発性肺癌に対する da Vinci ロボット支援肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術	取扱患者数	66 人
当該医療技術の概要 原発性肺癌に対する完全胸腔下の肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術			
医療技術名	口唇口蓋裂早期手術	取扱患者数	65 人
当該医療技術の概要 口唇口蓋裂児に対し、早期口唇形成術および早期顎誘導に引き続き口蓋形成術を行う。治療に当たっては口唇口蓋裂センターに関与する医師がチームアプローチで行う。			
医療技術名	形成外科的内視鏡手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 最小侵襲外科的発想から、形成外科においても体表面の目立つ部位に手術痕を残さない、もしくは可能な限り小さな創から治す工夫がなされている。漏斗胸に対して内視鏡を導入することで、小切開からの手術が可能となった。			
医療技術名	頭蓋顎顔面領域の三次元骨延長	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 整形外科領域における四肢の骨延長術は一般的になり、形成外科においても骨延長が導入されてきている。現在ではまだ二次元的な延長が主体であるが、顔面の形態や咬合をより自然に治療するためには三次元的な延長が理想である。われわれは歯科口腔外科の協力のもと、3次元画像と実体モデルを用いたシミュレーションを行い、この3次元骨延長術において良好な成果を挙げつつある。			
医療技術名	マイクロサージェリーを利用した各種血管付き自家・複合組織移植	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍切除後、あるいは外傷後の骨軟部組織の広範な欠損に対し、遠隔部位からの血管柄付き遊離皮弁を採取し、これを顕微鏡下に血管吻合、神経縫合を行い、移植する。整容的、かつ機能的再建外科治療として成果を挙げている。			
医療技術名	脊髄電気刺激療法	取扱患者数	21 人
当該医療技術の概要 遷延性意識障害に対して上位頸髄硬膜外に電極を留置して電気刺激を行うことで意識状態の改善を図る			
医療技術名	神経内視鏡技術を応用した脳深部腫瘍の切除術	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要 神経内視鏡と手術ナビゲーションを応用して脳深部に発生した腫瘍に対して正確な組織採取と確実な止血操作を特徴とする切除術を行う。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	複合的アプローチによる脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 通常のクリッピング手術では安全かつ完全な治療が困難な巨大脳動脈瘤に対して、神経内視鏡を用いて手術顕微鏡で直視できない部分の正常血管を観察し、血管内治療の技術を応用した血流遮断を行いながら、クリッピング術による根治術を行う。			
医療技術名	腰部脊柱管狭窄症手術	取扱患者数	111 人
当該医療技術の概要 顕微鏡を使用して行う椎弓形成手術とからだの支持性を再獲得するための脊椎固定手術を使い分けて行っている。			
医療技術名	頰椎症性脊髄症および神経根症に対する手術	取扱患者数	45 人
当該医療技術の概要 顕微鏡を使用して行う最小侵襲の除圧手術と固定手術を使い分けて行っている			
医療技術名	脊柱側弯症手術	取扱患者数	21 人
当該医療技術の概要 脊柱側弯症と脊柱後弯症にたいして矯正固定手術を行い、生活しやすくするための助力をしている。			
医療技術名	人工股関節再置換術	取扱患者数	18 人
当該医療技術の概要 人工股関節の長期使用による摩耗やゆるみに対する治療として実施。取り扱う機種が多岐にわたるほか、再建には同種骨移植を用いることも多く、非常に高度の技術と経験を要する。			
医療技術名	人工股関節感染に対する抗菌薬含有セメントスプレーモルト留置術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 人工股関節の感染に対して感染制御のために行う手術である。多くは耐ソリノ耐性グラム陽性球菌に対して実施されており、難治性の感染を制圧するためのノウハウを必要とする。			
医療技術名	最少侵襲外科手術法 (MIS) による人工股関節置換術	取扱患者数	29 人
当該医療技術の概要 前方ないし後方アプローチによる小切開 (8cm 程度) および筋肉温存 (筋肉を切離せず筋間中隔から進入) により実施する人工股関節置換手術である。術後のリハビリや入院期間の短縮が可能である一方、正確性と高度の技術および経験を要する。			
医療技術名	セラミック人工骨にて再建術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 手の月状骨軟化症にて鈴木式のセラミック人工骨で置換し、再建する手術です。			
医療技術名	人工肘関節置換術	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要 変形性肘関節症、リウマチ性肘関節症、骨軟骨欠損を伴う肘関節内粉碎脱臼骨折に対して人工肘関節置換術で良好な機能の肘関節を再建します。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	手関節形成術	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要 変形性肘関節症、関節リウマチによる手関節破壊、前腕骨骨折変形治癒に対して矯正骨術を含む手関節形成を行い良好な手関節機能を再建します。			
医療技術名	人工指関節置換術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 変形性指関節症・関節リウマチによる指関節破壊・外傷による指関節破壊に対し、人工指関節置換術で再建する			
医療技術名	肋軟骨移植による手指関節形成術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 外傷で骨軟骨欠損を生じた指関節を肋軟骨移植で再建する。			
医療技術名	ストロンチウムを使用	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 転移性骨腫瘍に対してのストロンチウムを使用			
医療技術名	薬物内服負荷試験	取扱患者数	26 人
当該医療技術の概要 薬疹の被疑薬もしくは今後内服可能な薬を検索する目的で行う。入院の上、点滴ルートを確認し、薬剤を常用量の 1/1000 量から順に時間をかけて常用量まで内服する。原因薬剤および成分を解析し、さらに交叉反応性などの分析も行っている。			
医療技術名	食物依存性運動誘発アナフィラキシーに対する誘発試験	取扱患者数	36 人
当該医療技術の概要： 入院の上、点滴ルートを確認し、即時型アレルギー症状を起こした可能性のある食物を摂取後にトレッドミル（心電図室）を用いて運動負荷をかける。またアスピリン誘発に関しては、アスピリンとのコンビネーション投与なども行っている。本検査によりアナフィラキシー症例の原因抗原を解析し、患者の QOL の向上に貢献している。			
医療技術名	皮膚貼布テスト（パッチテスト）	取扱患者数	192 人
当該医療技術の概要 遅延型アレルギーの検査目的で行う。感作が疑われる抗原を背部に閉鎖貼布し検査を行う。 ジャパニーズスタンダードや金属などのようなアレルゲンの他に、工場で使用している薬品類などの職業性アレルギーに対してはパッチテストの結果を元に接触感作物質の分析・解析を行っている。			
医療技術名	ブリックテスト	取扱患者数	144 人
当該医療技術の概要 即時型アレルギーの検査目的で行う。アレルギーの原因と考えられる食物などを用いる。 さらにラテックスアレルギーや花粉—食物アレルギー症候群の精査のために、リコンビナント抗原を用いた検査も行い原因抗原の同定を試みている。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎移植術 (生体)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 生体腎移植はすでに確立した手術手技であり、最近では血液型不適合ドナーや夫婦間腎移植などが増加しており、いずれも良好な結果を得ています。またドナーからの腎摘出術も低侵襲で安全性の高い腹腔鏡を用いた手術方法に変化しています。			
医療技術名	腎移植術 (献腎)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 当院では現在まで 120 例を超える献腎移植が行われ、心停止ドナーからの腎移植成績として海外に誇る実績を積みできました。また心停止、脳死下での腎摘出数は単一施設としては国内で最多です。			
医療技術名	生体膵腎同時移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 1 型糖尿病で慢性腎不全を合併した患者 2 名に対し、父親から膵体尾部と左腎を内視鏡手術で摘出し、同時移植を行うことに成功しました。ドナー、レシピエントともに社会復帰しています。脳死ドナーが少ないわが国では選択しのひとつと考えています。			
医療技術名	腹腔鏡下腎 (尿管) 全摘術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 限局性腎細胞癌および腎盂・尿管癌に対して施行される低侵襲的手術療法です。術中の出血量は少なく、術後の疼痛も軽減されるため対象疾患のほとんどがこの術式で行われております。また、制癌効果の関しても開放手術に比べて遜色ない成績が得られています。			
医療技術名	膀胱全摘+代用膀胱造設術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 若年者や根治性の高い浸潤性膀胱癌患者さんに対して術後の排尿に関する QOL を重視した尿路変更術です。これまでの尿路変更術では蓄尿バッグを体外に装着しなければなりませんでした。腸管を用いた体内でのリザーバーに蓄尿かつ自排尿を可能にすることにより術後 QOL の改善が得られています。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術 (da Vinci)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 従来の腹腔鏡下前立腺全摘術は非常に高い技術が必要とされ、ごく限られた施設間においてのみ施行されてきました。しかし、ロボット (da Vinci) 手術の特徴である 3-D 画面や 270 度の可動域を持つ鉗子を用いることにより正確かつ安全な手術が可能となります。わが国ではわずか数台しか使用されていませんが、欧米や韓国などの一部のアジアにおいては前立腺全摘術の 7 割以上がロボットにより行われています。当施設においても昨年度から東海地区で初めて導入し、初例からの 8 例すべてにおいて開放術への移行や輸血を必要とすることもなく安全に施行されています。			
医療技術名	腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症の子宮腺筋症症例に対する妊孕性温存手術			
医療技術名	胎児先天性心疾患の出生前超音波診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 胎児先天性疾患は全出生児の 1% に存在し、このうち 30% は大奇形で、その一部には出生早期から新生児科と連携した手厚い管理が必要となる。当科では近隣の医療機関と協同し、当該疾患のスクリーニングと早期診断を実施し、病診・病病連携システムの構築も合わせて、新生児の予後の向上に務めている。			

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	3次元4次元超音波検査の臨床的活用	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 3次元立体像ならびにこれに時間を加えた4次元超音波検査を臨床応用し、骨盤内臓器や胎児異常の出生前診断に活用している。			
医療技術名	硝子体手術	取扱患者数	1078人
当該医療技術の概要 網膜疾患の治療全般を行うが特に当院ではoffissという特殊顕微鏡を使用しているため安全かつ効率的に手術を行うことができる。			
医療技術名	自家遊離組織移植術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 頭頸部癌摘出術後の組織欠損部に微小血管吻合術を行い自家遊離組織を移植する。			
医療技術名	セルジンガー法による超選択的動注化学療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 頭頸部進行癌に対してセルジンガー法により、抗癌剤を超選択的に腫瘍の栄養動脈内に注入する方法である。			
医療技術名	ステントグラフト内挿術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤に対しての低侵襲治療法であり、高齢者においても安全に動脈瘤治療を行うことができる。			
医療技術名	CT透視下生検術	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要 多検出器型CTを用いて三次元的に目的病変に対して穿刺針を進めて安全に生検術やドレナージ術を施行できる。			
医療技術名	320列エリアディテクターCT検査	取扱患者数	400人
当該医療技術の概要 320列エリアディテクターCTを用いて三次元的に冠動脈の評価を行い、詳細な血管抽出が可能となる。			
医療技術名	非密封小線源による治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 パセドウ病に対してヨード放射線治療を、また癌骨転移による疼痛に対しストロンチウムにて非侵襲的に治療を行うことができる。			
医療技術名	前立腺密封小線源治療	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 前立腺癌に対し直接密封小線源を挿入し、非侵襲的に治療を行うことができる。			

(注) 当該医療機関において高度の医療技術と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い 患者数	疾 患 名	取扱い 患者数
・ベーチェット病	61 人	・膿疱性乾癬	6 人
・多発性硬化症	45 人	・広範脊柱管狭窄症	3 人
・重症筋無力症	39 人	・原発性胆汁性肝硬変	16 人
・全身性エリテマトーデス	407 人	・重症急性膵炎	7 人
・スモン	0 人	・特発性大腿骨頭壊死症	50 人
・再生不良性貧血	21 人	・混合性結合組織病	55 人
・サルコイドーシス	89 人	・原発性免疫不全症候群	12 人
・筋萎縮性側索硬化症	9 人	・特発性間質性肺炎	5 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	229 人	・網膜色素変性症	13 人
・特発性血小板減少性紫斑病	71 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	47 人	・肺動脈性肺高血圧症	6 人
・潰瘍性大腸炎	282 人	・神経線維腫症	11 人
・大動脈炎症候群	20 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	15 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・天疱瘡	12 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	17 人
・脊髄小脳変性症	49 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4 人
・クローン病	272 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	4 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患	96 人	・球脊髄性筋萎縮症	0 人
・アミロイドーシス	6 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2 人
・後縦靭帯骨化症	52 人	・肥大型心筋症	0 人
・ハンチントン病	7 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	44 人	・ミトコンドリア病	0 人
・ウェゲナー肉芽腫症	6 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	48 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症	22 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2 人	・間脳下垂体機能障害	8 人
		合計	2,177 人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索
・画像支援ナビゲーション手術	・超音波骨折治療法
・眼底三次元画像解析	・抗 EGFR 抗体医薬投与前における KRAS 遺伝子変異検査 (EGFR 陽性の治癒切除不能な進行又は、再発の結腸又は、直腸がんに係るものに限る)
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う 3 年前の 4 月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法 (平成六年厚生省告示第五十四号) に先進医療 (当該病院において提供したものに限り) から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検 CPC	12 回	
	臓器別 CPC	60 回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数	76 例	剖検率 8.0 %

(様式第 11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
1	心臓サルコイドーシスの病態診断と治療に関する研究	森本紳一郎	循環器内科	12,220 千円	補 委	循環器病研究委託費(厚生労働省)
2	マイナー抗原を標的とした免疫療法の開発	赤塚 美樹	血液内科・化学療法科	7,800 千円	補 委	文部科学省がん特定領域研究
3	選択的移植片対腫瘍反応(GvTR)の誘導	赤塚 美樹	血液内科・化学療法科	1,000 千円	補 委	厚生労働科学研究費補助金
4	亜ヒ酸を用いた M3 白血病の臨床研究	恵美 宣彦	血液内科・化学療法科	700 千円	補 委	日本私立学校振興共済事業団
5	DLBCL発症におけるEBウイルスの関与	岡本 昌隆	血液内科・化学療法科	400 千円	補 委	日本私立学校振興共済事業団
6	PCR法による残存白血病細胞の検出	水田 秀一	血液内科・化学療法科	400 千円	補 委	日本私立学校振興共済事業団
7	混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	1,700 千円	補 委	厚生労働科学研究費補助金
8	無細胞蛋白合成法を用いた高安動脈炎における抗内皮細胞抗体の標的抗原の解析	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	700 千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
9	混合性結合組織病に合併した肺高血圧症の診断・スクリーニングにおけるNT-ProBNPの有用性に関する検討	深谷 修作	リウマチ・感染症内科	300 千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
10	治療中の膠原病患者におけるcytomegalovirus感染症に関する研究	西野 譲	リウマチ・感染症内科	200 千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
11	骨髄腫腎に対する積極的 free light chain 除去療法の検討	長谷川みどり	腎内科	100 千円	補 委	愛知腎臓財団
12	長時間透析が酸化ストレスに及ぼす影響	村上 和隆	腎内科	100 千円	補 委	愛知腎臓財団

小計 12 件

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
13	IgA 腎症患者血清 IgA と抗合成ヒト IgA1N アセチルガサクトサミン抗体（抗 IgA1GalNAc 抗体）との結合性の検討	山本幸一郎	腎内科	300 千円	補委	愛知腎臓財団
14	IgA 腎症の糸球体沈着性 IgA と糸球体障害惹起機序の解明	山本 義浩	腎内科	100 千円	補委	愛知腎臓財団
15	糖尿病戦略研究課題 3 (J-DOIT 3)	伊藤 光泰	内分泌・代謝内科	2,280 千円	補委	厚生労働科学研究費補助金 財団法人 国際協力医学研究振興財団
16	自発性低血糖症の実態把握のための全国調査	伊藤 光泰	内分泌・代謝内科	250 千円	補委	厚生労働科学研究費補助金
17	甲状腺クリーゼの診断基準の作成と全国疫学調査	鈴木 敦詞	内分泌・代謝内科	800 千円	補委	厚生労働科学研究費補助金 「難治性疾患克服研究事業」
18	免疫性神経疾患に関する調査研究	武藤多津郎	神経内科	500 千円	補委	厚生労働省特定疾患対策研究事業 免疫性神経疾患に関する調査研究班
19	スモンに関する調査研究	武藤多津郎	神経内科	1,200 千円	補委	厚生労働省特定疾患研究事業スモンに関する調査研究班
20	統合失調症の病識と長期予後に関する研究	岩田 仲生	精神科	1,000 千円	補委	文部科学省科学研究費補助金
21	統合失調症の多次元生物学的診断法と新たな治療薬の開発をめざした病態解明研究・治療法の開発	岩田 仲生	精神科	1,500 千円	補委	厚生労働省厚労科研費補助金
22	抗精神病薬と抗うつ薬のファーマコジェネティクス	岩田 仲生	精神科	3,500 千円	補委	厚生労働省厚労科研費補助金
23	精神疾患脆弱性遺伝子と中間表現型に基づく新しい診断法・治療法の開発に関する研究	岩田 仲生	精神科	2,400 千円	補委	厚生労働省厚労科研費補助金

小計 11 件

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託
24	予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究	浅野 喜造	小児科	2,000 千円	厚生労働省 補委
25	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究	浅野 喜造	小児科	3,800 千円	厚生労働省 補委
26	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌ウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究	吉川 哲史	小児科	5,200 千円	厚生労働省 補委
27	全新生児を対象とした先天性サイトメガロウイルス(CMV)感染スクリーニング体制の構築に向けたパイロット調査と感染児臨床像の解析エビデンスに基づく治療指針の基盤策定	吉川 哲史	小児科	1,500 千円	厚生労働省 補委
28	急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明・早期診断・治療法確立に関する臨床研究	吉川 哲史	小児科	1,100 千円	厚生労働省 補委
29	初感染ならびに再活性化時HHV-6 脳炎の病態解明	吉川 哲史	小児科	1,300 千円	文部科学省 補委
30	急性脳炎・脳症の病態解明およびそれに基づく治療法・予防方法の確立に関する研究	吉川 哲史	小児科	1,000 千円	文部科学省 補委
31	造血幹細胞移植児におけるロタウイルス抗原血症の解析	菅田 健	小児科	900 千円	文部科学省 補委
32	鶏卵アレルギーにおける卵白特異的 T 細胞応答ならびに制御性 T 細胞の解析	柘植 郁哉	小児科	1,040 千円	科学研究費補助金基盤研究(C) 補委
33	ぜん息キャンプ・水泳訓練教室・スケート教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する研究	柘植 郁哉	小児科	1,500 千円	独立行政法人環境再生保全機構予防事業 補委
34	ぜん息キャンプ・水泳訓練教室・スケート教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する研究	近藤 康人	小児科	1,500 千円	独立行政法人環境再生保全機構予防事業 補委
35	第3世代バイオテクノロジー応用食品等の安全性確保とリスクコミュニケーションに関する研究	近藤 康人	小児科	800 千円	厚生労働科学研究費補助金 補委

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
36	胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する研究	宇山 一朗	上部消化管外科	1,200 千円	補委	厚生労働省 がん研究助成金
37	低位直腸がん手術における肛門温存療法の開発に関する研究	前田耕太郎	下部消化管外科	1,200 千円	補委	厚生労働省 がん研究助成金
38	進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究	前田耕太郎	下部消化管外科	600 千円	補委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
39	肺癌組織の遺伝子発現解析とそれに基づく抗体治療法の研究	服部 良信	呼吸器外科	600 千円	補委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
40	TGFbeta-1 遺伝子導入による肉芽促進作用の応用に関する検討	須田 隆	呼吸器外科	400 千円	補委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
41	胸腔鏡下肺切除術後における胸膜外腔カテーテルを用いた持続的鎮痛剤投与の有用性に関する研究	杉村 裕志	呼吸器外科	250 千円	補委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
42	呼吸器外科手術後の疼痛コントロールに関する検討	北村 由香	呼吸器外科	150 千円	補委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
43	レチノイン酸を主軸とした皮膚創傷治療機構の解析	坂井 靖夫	形成外科	7,300 千円	補委	文科省科研費 基盤 B 一般
44	悪性神経膠腫に対する temozolomide 化学療法の増感法開発のための基礎研究	廣瀬 雄一	脳神経外科	3,700 千円 500 千円	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金基礎研究(B) 藤田学園 研究助成費
45	神経膠腫における分子生物学的分類の構築と、個別化治療の確立	廣瀬 雄一	脳神経外科	100 千円	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金基礎研究(C)
46	脳動脈瘤手術の向上と安全な手術の普及	佐野 公俊	脳神経外科	700 千円	補委	藤田学園 研究助成費
47	脳血管内外科及び脳動脈瘤治療に対する血管内視鏡、神経内視鏡での応用	加藤 庸子	脳神経外科	500 千円	補委	藤田学園 研究助成費

小計 12 件

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
48	腰椎すべり症の臨床的研究	庄田 基	脳神経外科	500 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
49	神経膠腫におけるメチオニン PET と Gd.造影で、差の部分の病理学的検討	川瀬 司	脳神経外科	200 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
50	320 row area detector CT (320 row ADCT: Aquillion One) の Dynamic 3D-CTA による脳動静脈奇形の臨床 評価	早川 基治	脳神経外科	250 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
51	脊髄髄内悪性腫瘍に対する Temozomide 治療の有用性と問題点	久野 茂彦	脳神経外科	150 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
52	即時電気離脱式コイル (ED coil) によるステント併用での脳動脈瘤塞栓効果の検討	定藤 章代	脳神経外科	200 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
53	神経内視鏡の脳血管障害特に脳動脈瘤への導入	小田 淳平	脳神経外科	150 千円	補 委	藤田学園 研究助成費
54	金属アレルギーの克服へ向けた効果的診断・予防・治療法の開発研究	松永佳世子	皮膚科	2,000 千円	補 委	厚生労働省科 学研究費
55	動物実験代替法を用いた安全性評価体制の確立と国際協調に関する研究	松永佳世子	皮膚科	500 千円	補 委	厚生労働省科 学研究費
56	アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたストレスによる免疫調節機構に関する研究	松永佳世子	皮膚科	700 千円	補 委	厚生労働省科 学研究費
57	アトピー性皮膚炎患者における掻痒に対するレーザーならびに光治療の奏効機序—疾患モデルマウスによる検討と治療法による奏効機序の検討—	秋田 浩孝	皮膚科	300 千円	補 委	藤田学園教員 助成費
58	化学外科療法 (Mohs 氏法) を用いた皮膚悪性腫瘍の研究	有馬 豪	皮膚科	200 千円	補 委	藤田学園教員 助成費
59	種々の皮膚疾患における心理テストとストレスマーカーの研究	山北 高志	皮膚科	150 千円	補 委	藤田学園教員 助成費
60	臓器移植の社会的基盤に関する研究	星長 清隆	泌尿器科	1,700 千円	補 委	厚生労働省科 学研究費

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
61	腎細胞特異抗原に対し単離した完全ヒト型抗体の機能解析と治療効果の研究	白木 良一	泌尿器科	1,200 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
62	心停止ドナーからの献腎移植適応に関する研究	早川 邦弘	泌尿器科	600 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
63	脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	杉谷 篤	泌尿器科	500 千円	補 委	厚生労働省 科学研究費
64	臓器移植の成績向上をめざした臨床データ解析を目的とした症例登録と追跡制度の確立並びにドナー及びレシピエントの安全性確保とQOL向上に関する研究	杉谷 篤	泌尿器科	300 千円	補 委	厚生労働省 科学研究費
65	子宮体部非類内膜腺癌におけるHER2の発現意義と分子標的治療の可能性	宇田川康博	産科・婦人科	700 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
66	低浸襲性腹腔鏡下手術における術後癒着防止に関する検討－生殖機能温存手術への取り組み	廣田 穰	産科・婦人科	550 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
67	経膈超音波断層像による妊娠末期頸管腺領域像とReal-time PCR法による頸管熟化に関するmRNA発現との関連、およびそれを用いた分娩進行と臨床的予後予測	関谷 隆夫	産科・婦人科	250 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
68	妊娠高血圧症候群における母体腎動脈および胎盤の血流動態の検討	多田 伸	産科・婦人科	300 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
69	本邦における原発性腹膜癌に関する多施設共同研究およびその病態の解明に関する分子レベルの研究	小宮山慎一	産科・婦人科	400 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
70	妊娠合併症に対する新規生物学的マーカーの開発における基礎検討	西澤 春紀	産科・婦人科	350 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
71	子宮頸部腺癌におけるERCC1の発現とその意義	加藤 利奈	産科・婦人科	150 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団
72	卵巣明細胞腺癌におけるpodoplaninの発現とその細胞生物学的意義に関する検討	大江 収子	産科・婦人科	150 千円	補 委	日本私学学校 振興 共済事業団

小計 12 件

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
73	本邦における原発性腹膜癌に関する多施設共同研究	小宮山慎一	産科・婦人科	700 千円	補委	文部科学省科学研究費
74	口腔保健と全身の QOL の関係に関する総合研究	才藤 栄一	リハビリテーション科	1,000 千円	補委	厚生労働省科学研究費
75	摂食・嚥下機能向上支援とその評価に関する研究：患者立脚型アウトカム指標の開発	横山 通夫	リハビリテーション科	100 千円	補委	文部科学省科学研究費
76	片麻痺上下肢の三次元動作解析による定量的評価法の開発	尾崎 健一	リハビリテーション科	997 千円	補委	大学院整備重点化経費
77	デジタル粘度計を用いて計測した食塊の粘土と嚥下障害との関係	田中 貴志	リハビリテーション科	935 千円	補委	大学院整備重点化経費
78	対麻痺者用の「装着型歩行再建ロボット WPAL」の実用化開発	才藤 栄一	リハビリテーション科	2,047 千円	補委	NEDO 技術開発機構産業技術実用化開発費補助事業
79	神経免疫応答の画像診断—新規 PBR リガンドによるアプローチと多角的検証	外山 宏	放射線科	12,350 千円	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
80	脳移行性ペプチドを用いた新規脳機能イメージング用 PET リガンドの開発	外山 宏	放射線科	1,300 千円	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
81	微量採血系開発及び無採血化を含む PET によるマウス神経受容体定量画像手法の構築	外山 宏	放射線科	650 千円	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
82	認知症の早期診断のための画像診断機器（ネットワーク活用による共同カンファレンスシステムを含む。）の開発	外山 宏	放射線科	3,000 千円	補委	厚生労働省長寿医療研究委託事業
83	レビー小体型認知症の早期診断法に関する研究	乾 好貴	放射線科	650 千円	補委	文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))
84	運動誘発電位モニター下脊髄外科手術における安全な麻酔法の検討	竹田 清	麻酔科 1	700 千円	補委	藤田学園教員研究助成費
85	全胚培養法を応用した口唇裂発生における各種揮発性麻酔薬の作用機序の解析	山田 守正	麻酔科 1	500 千円	補委	藤田学園教員研究助成費

小計 13 件

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託	
86	ストレスレス麻酔について	大原 義隆	麻酔科 1	500 千円	補 委	藤田学園教員 研究助成費
87	術前の不安度と術後鎮痛薬必要量の検討	木村 直暁	麻酔科 1	500 千円	補 委	藤田学園教員 研究助成費
88	術中覚醒防止のための研究	新居 憲	麻酔科 1	500 千円	補 委	藤田学園教員 研究助成費

小計 3 件
合計 88 件

- 注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第 11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Am J Med 122(6):566-573, 2009	Cystatin C in acute heart failure without advanced renal impairment.	成瀬 寛之	循環器内科
2	Ann Noninvasive Electrocardiol 14(3):280-289, 2009	Circadian distribution of paroxysmal atrial fibrillation in patients with and without structural heart disease in untreated state.	渡邊 英一	循環器内科
3	Circ J 73(Suppl A): A36-A41,2009	Management of Severe Heart Failure	宮城島賢二	循環器内科
4	J Am Coll Cardiol 54(1):49-57,2009	Computed tomographic angiography characteristics of atherosclerotic plaques subsequently resulting in acute coronary syndrome.	皿井 正義	循環器内科
5	Int J Cardiovasc Imaging 25(8):765-775, 2009	¹²³ I-BMIPP and ^{99m} Tc-TF discordance on myocardial scintigraphy and it's correlation with functional recovery following acute myocardial infarction: role of conventional echocardiography	皿井 正義	循環器内科
6	Singapore Med J 50(10):943-948, 2009	¹²³ I-BMIPP fatty acid analogue imaging is a novel diagnostic and prognostic approach following acute myocardial infarction	皿井 正義	循環器内科
7	Circ Arrhythmia Electrophysiol 2:511-523,2009	Latent Genetic Backgrounds and Molecular Pathogenesis in Drug-induced Long - QT Syndrome	渡邊 英一	循環器内科
8	PHYSICAL REVIEW E 80(5):051917-1~9, 2009	Phase statistics approach to human ventricular fibrillation	渡邊 英一	循環器内科
9	Molecular Vision 15:2673-2682, 2009	Lack of association between toll-like receptor 4 gene polymorphisms and sarcoidosis-related uveitis in Japan	森本紳一郎	循環器内科
10	Current Cardiovascular Imaging Reports 2:418-426,2009	Evaluation of Plaque Instability	尾崎 行男	循環器内科

小計 10 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
11	J Am Coll Cardiol 54(4):293-302, 2009	Effect of Intensive Statin Therapy on Regression of Coronary Atherosclerosis in Patients With Acute Coronary Syndrome: A Multicenter Randomized Trial Evaluated by Volumetric Intravascular Ultrasound Using Pitavastatin Versus Atorvastatin (JAPAN-ACS[Japan Assessment of Patavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndorome] Study)	尾崎 行男	循環器内科
12	Int J Cardiol 138(3):290-299, 2010	Fatty acid metabolism and myocardial perfusion imaging for the evaluation of global left ventricular dysfunction following acute myocardial infarction: comparisons with echocardiography.	皿井 正義	循環器内科
13	Int J Cardiovasc Imaging 26:155-164,2010	The washout rate of 123I-BMIPP and the evolution of left ventricular function in patients with successfully reperfused ST-segment elevation myocardial infarction: comparisons with the echocardiography	皿井 正義	循環器内科
14	Eur Heart J 31: 401-415,2010	Expert review document on methodology, terminology, and clinical applications of optical coherence tomography: physical principles, methodology of image acquisition, and clinical application for assessment of coronary arteries and atherosclerosis	尾崎 行男	循環器内科
15	Progress in Medicine 29(7): 1783-1787,2009	ARB と少量利尿薬の併用による血圧および尿酸値への影響について	宮城島 賢二	循環器内科
16	日本呼吸器学会雑誌 47(4):265-270, 2009	びまん性肺胞出血症候群 14 例の臨床的検討—初診時所見と予後の関係について—	小橋 保夫	呼吸器内科・アレルギー科
17	Psychiatry and Clinical Neurosciences 63:385-391,2009	Risk factors for obstructive sleep apnea syndrome screening in mood disorder patients	Sakakibara H	呼吸器内科・アレルギー科
18	Cancer Chemother Pharmacol 64:1181-1185, 2009	A phase II study of S-1 monotherapy as second-line treatment for advanced non-small cell lung cancer	Totani Y	呼吸器内科・アレルギー科
19	呼吸不全に関する調査研究班 平成 21 年度 研究報告書 別冊 280-284,2010	日本人勤労女性の睡眠呼吸障害および睡眠時無呼吸症候群の有病率	榊原 博樹	呼吸器内科・アレルギー科
20	日本胆道学会雑誌 23(4):692-697,2009	EUS-FNA が診断に有用であった結核性リンパ節炎による閉塞性黄疸の 1 例	原田 雅生	肝胆膵内科

小計 10 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
21	J Gastroenterol 44:751-756,2009	The loss of HBeAg without precore mutation results in lower HBV DNA levels and ALT levels in chronic hepatitis B virus infection	Kawabe N	肝胆膵内科
22	Hepatology Research 39:675-684,2009	Liver stiffness measured by transient elastography correlates with fibrosis area in liver biopsy in patients with chronic hepatitis C	Nitta Y	肝胆膵内科
23	Inter Med 48(16):1433-1435, 2009	Successful Pregnancy in a Patient with Chronic Myeloid Leukemia under Treatment with Imatinib	Tsuzuki M	血液内科・化学療法科
24	Eur J Haematol 82(5):405-407,2009	Factor VII deficiency : a double heterozygote of an Arg402Stop with a deletion of the C-terminal five amino acids and a Thr359Met	Okamoto M	血液内科・化学療法科
25	Pathol Int 59(7):431-437,2009	Comparative clinicopathological study of primary CNS diffuse large B-cell lymphoma and intravascular large B-cell lymphoma	Okamoto M	血液内科・化学療法科
26	日本医師会雑誌 138(4):736-737, 2009	ステロイドの投与方法と中止のしかた	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科
27	呼吸器科 16(3):192-198,2009	膠原病に伴う肺動脈性肺高血圧症	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科
28	関節リウマチは治せる時代に :64-66,2009	関節リウマチの診断のしかた リウマチ性多発筋痛症とどう違う？	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科
29	リウマチ科 43(3):309-317,2010	膠原病性肺高血圧症の治療	深谷 修作	リウマチ・感染症内科
30	リウマチ科 41(5):526-532,2009	膠原病に合併する肺動脈性肺高血圧症の治療	深谷 修作	リウマチ・感染症内科
31	日本臨床免疫学会 会誌 32(1):61-65,2009	強直性脊椎炎に Infliximab を使用した 2 例(症例報告)	西野 譲	リウマチ・感染症内科

小計 11 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
32	Blood Purification 28(3):209-215, 2009	Serum Levels of 5-S-Cysteinyldopa Are Correlated with Skin Colors in Hemodialysis Patients but Not in Peritoneal Dialysis Patients	Murakami K	腎内科
33	Nephron Clinical Practice 113(3):222-233, 2009	Expression of Tumor Necrosis Factor Receptors on Granulocytes in Patients with Myeloperoxidase Anti-Neutrophil Cytoplasmic Autoantibody-Associated Vasculitis	Hasegawa M	腎内科
34	Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 81:247-251,2009	Effects of prostaglandin D ₂ on Na-dependent phosphate transport activity and its intracellular signaling mechanism in osteoblast-like cells	浅野 昇悟	内分泌・代謝内科
35	Journal of Enzyme Inhibition and Medicinal Chemistry 24(2):524-530,2009	Thyroglobulin may affect telomerase activity in thyroid follicular cells	織田 直久	内分泌・代謝内科
36	Exp Clin Endocrinol Diabetes 117(10):593-599, 2009	Comparative Study of Low-dose Pioglitazone or Metformin Treatment in Japanese Diabetic Patients with Metabolic Syndrome	加藤 大也	内分泌・代謝内科
37	ホルモンと臨床 57(増刊号): 14-19,2009	酢酸オクトレオチドとカベルゴリンと併用療法が有効であった GH 産生下垂体残存腫瘍の 1 例	浅野 昇悟	内分泌・代謝内科
38	Osteoporosis Japan 17(2):100-103,2009	妊娠後期における冬季ビタミン D 欠乏に関する検討	四馬田恵	内分泌・代謝内科
39	Progress in Medicine 第 5 号 29(5):127-131, 2009	メタボリックシンドロームを伴った高血圧、糖尿病を合併した患者におけるテルミサルタンとシルニジピンの単剤治療効果についての比較検討	加藤 大也	内分泌・代謝内科
40	新薬と臨床 58(5):73-77,2009	下肢閉塞性動脈硬化症を合併した糖尿病に対する注射用プロスタンディン®の効果と作用機序の検討	加藤 大也	内分泌・代謝内科
41	Int Med 48:843-846,2009	Acute autonomic, sensory and motor neuropathy: successful treatment with IVIg	Ueda A	神経内科
42	Brain Research 1301:110-115, 2009	Clioquinol inhibits NGF-induced Trk autophosphorylation and neurite outgrowth in PC12 cells.	Asakura K	神経内科
43	神経治療学 26(3):387,2009	単純ヘルペス脳炎後に多発性大脳白質病変をきたした 1 例	島 さゆり	神経内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
44	生体の科学 60(3):222-227,2009	アルツハイマー病と糖脂質異常	武藤多津郎	神経内科
45	パーキンソン病診療 Q&A110 :62-64,2009	パーキンソン病での神経伝達物質の変化について	武藤多津郎	神経内科
46	Neuropsychobiology 59:234-238,2009	Orphan Nuclear Receptor Rev-erb Alpha Gene (<i>NR1D1</i>) and Fluvoxamine Response in Major Depressive Disorder in the Japanese Population	岸 太郎	精神科
47	Neuropharmacology 58:452-456,2010	Serotonin 1A receptor gene is associated with Japanese methamphetamine-induced psychosis patients	岸 太郎	精神科
48	Neuromol Med 11:114-122,2009	Possible Association of Prokineticin 2 Receptor Gene (PROKR2) with Mood Disorders in the Japanese Population	岸 太郎	精神科
49	Neuroscience Research 64:231-234,2009	Genetic association analysis of serotonin 2A receptor gene (HTR2A) with bipolar disorder and major depressive disorder in the Japanese population	岸 太郎	精神科
50	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 259:293-297,2009	Association study of clock gene (CLOCK) and schizophrenia and mood disorders in the Japanese population	岸 太郎	精神科
51	J Nephrol. 22(5):610-5,2009	Beneficial effect of chlorambucil in steroid-dependent and cyclophosphamide-resistant minimal change nephritic syndrome.	Morooka M	小児科
52	日本小児腎不全学会雑誌 29:150-2,2009	MPO-ANCA 陽性急速進行性腎炎による慢性腎不全に対して生体腎移植を施行した 1 例	平井 雅之	小児科
53	Pediatr Neurol 41:353-8,2009	Exanthem subitum-associated encephalitis : Nationwide survey in Japan.	Yoshikawa T	小児科
54	Bone Marrow Transplant. 43:83-4,2009	Primary infection of human herpesvirus-6 in an infant who received cord blood SCT.	Yoshikawa T	小児科
55	Arch Virol. 154:273-83,2009	Relationship between U83 gene variation in human herpesvirus 6 and secretion of the U83 gene product.	Yoshikawa T	小児科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
56	Pediatr Intern 51(4):577-8,2009	Single episode of Behcet's disease-like symptoms caused by herpes simplex virus reactivation.	Sugata K	小児科
57	J Med Virol 81:1094-1101,2009	Modified adult measles in outbreaks in Japan, 2007-2008. J	Yoshikawa T	小児科
58	Microbe Infect 11:1029-36,2009	Recombinant human monoclonal antibodies to human cytomegalovirus glycoprotein B neutralize virus in a complement-dependent manner.	Yoshikawa T	小児科
59	Pediatr Int. 51(3):385-9,2009	Short-term efficacy of tacrolimus ointment and impact on quality of life.	Kondo Y	小児科
60	Allergol Int. 58(2):295-9,2009	Comparison of allergenic properties of salmon (<i>Oncorhynchus nerka</i>) between landlocked and anadromous species.	Kondo Y	小児科
61	J Exp Med. 206(6):1291-301, 2009	Molecular explanation for the contradiction between systemic Th17 defect and localized bacterial infection in hyper-IgE syndrome.	Tsuge I	小児科
62	小児外科 41(8):847-848, 2009	特集 <小児外来必携 お子さまの病気を専門医がわかりやすく説明します> 尿管管遺残	原 普二夫	小児外科
63	小児外科 42(1):15-19, 2010	大学病院における小児外科医療安全対策：安全管理レポートとその分析	富重 博一	小児外科
64	Pediatric Surgery 26(2):187-193, 2010	Effect of polymyxin B-immobilized fiber hemoperfusion on respiratory impairment, hepatocellular dysfunction, and leucopenia in a neonatal sepsis model	Hashimoto T	小児外科
65	Anticancer Res. 29(5):1783-6,2009	Treatment of patients with unresectable advanced carcinoma of biliary tract - chemotherapy and surgical resection	Morise Z	肝・脾外科
66	J Nucl Med. 50(5):827-30,2009	¹⁸ F-FDG PET for semiquantitative evaluation of acute allograft rejection and immunosuppressive therapy efficacy in rat models of liver transplantation.	Sugioka A	肝・脾外科
67	World Journal of Hepatology 2(2):58-64,2010	Surgery and chemotherapy for intrahepatic cholangiocarcinoma.	Morise Z	肝・脾外科
68	消化器外科 59(5):297-933,2009	血管浸潤を伴った肝内胆管癌に対する外科切除成績	守瀬 善一	肝・脾外科

小計 13 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
69	日本臨床外科学会誌 70(4):1171-1176, 2009	胆管嚢胞腺癌の1切除例	星本 相淳	肝・脾外科
70	Transplantation Proceedings 41:422-424, 2009	Treatment of Nonalbumin Rats by Transplantation of Immortalized Hepatocytes Using Artificial Human Chromosome	Ito M	胆・膵外科
71	J Hepatobiliary Pancreat Sci 17(4):523-526, 2010	Three-dimensional models of arteries constructed using multidetector-row CT images to perform pancreatoduodectomy safely following dissection of the inferior pancreaticoduodenal artery	Horiguchi A	胆・膵外科
72	Arch Surg 144(12):1138-42, 2009	Laparoscopic total gastrectomy with D2 lymph node dissection for gastric cancer	Shinohara T	上部消化管外科
73	日本臨床外科学会雑誌 70(10):2994-2998, 2009	腹腔鏡下に修復した胃軸捻転を伴う食道裂孔ヘルニアの1例	稲葉 一樹	上部消化管外科
74	手術 63(12):1815-1820, 2009	手術手技 腹腔鏡下胃切除における腹腔動脈周囲リンパ節郭清術 内側アプローチ	金谷誠一郎	上部消化管外科
75	日本臨床外科学会雑誌 70(8):2357-2362, 2009	腹腔鏡下緊急手術にて切除を行った出血性十二指腸 GIST の1例	吉村 文博	上部消化管外科
76	現代医学 57(1):69-73, 2009	胃癌に対するダヴィンチ導入とロボティック医療	石田 善敬	上部消化管外科
77	外科 71(12):1303-1306, 2009	【必読 一冊に凝縮した研修医のための手術書】各論 ヘルニア 鼠径・大腿ヘルニア メッシュを用いた修復 Mesh plug 法	春田周宇介	上部消化管外科
78	臨床外科 64(11):381-384, 2009	【できる!縫合・吻合】 部位(術式)別の縫合・吻合法 内視鏡下手術における吻合 腹腔鏡下胃全摘後再建	平松 良浩	上部消化管外科
79	臨床外科 64(10):1345-1351, 2009	【消化器外科における経腸栄養の意義と役割】 消化器外科周術期合併症の予防と合併症発症後の治療における経腸栄養の役割	櫻井 洋一	上部消化管外科
80	消化器外科 32(10):1611-1621, 2009	【胃癌の治療 最近の考え方と治療の実際】 胃癌に対する腹腔鏡下手術 腹腔鏡下胃全摘術	谷口 桂三	上部消化管外科
81	栄養・評価と治療 26(3):240-245, 2009	【癌患者における栄養ケアの実際】 消化管癌患者の栄養ケアの実際	櫻井 洋一	上部消化管外科

小計 13 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
82	外科治療 101(1):15-19,2009	【近未来の新たな手術 ロボット手術とNOTES】 胃癌に対するロボット手術	石田 善敬	上部消化管外科
83	外科治療 100(6):783-789, 2009	【ここまできた食道疾患の内視鏡下治療・外科手術】 内視鏡外科手術 食道癌に対する左半腹臥位食道切除術	磯垣 淳	上部消化管外科
84	手術 63(6):757-763, 2009	【若い外科医に伝えたい私の手術手技】 胃の手術 内視鏡下胃全摘術	宇山 一朗	上部消化管外科
85	消化器内視鏡 21(5):759-762, 2009	【オーダーメイド医療を可能にする胃癌診断】 早期胃癌 腹腔鏡下幽門側胃切除術 標準手術と適応拡大の可能性	石田 善敬	上部消化管外科
86	手術 63(5):563-569, 2009	【肥満と手術】 肥満下の手術 肥満に対する腹腔鏡下胃切除	谷口 桂三	上部消化管外科
87	胃と腸 44(4):694-699, 2009	【早期胃癌 2009】 早期胃癌の治療 腹腔鏡下胃切除	稲葉 一樹	上部消化管外科
88	消化器外科 32(5):753-759, 2009	【消化器癌～診断・治療のすべて】 消化器癌の診断・治療 胃癌 体部・幽門部癌 治療の実際(解説/特集)	磯垣 淳	上部消化管外科
89	外科治療, 100(増刊):453-459,2009	【マスターしておきたい標準的内視鏡外科手術】 内視鏡外科手術におけるデバイスの進歩	金谷誠一郎	上部消化管外科
90	日本医師会雑誌 138(8):1601,2009	がんの集学的治療の最前線 食道がん・胃がんを中心に 食道がん・胃がんに対する内視鏡手術の進歩	宇山 一朗	上部消化管外科
91	日本外科学会雑誌 110(5):313,2009	外科手術における感染症の up to date 胃癌手術	宇山 一朗	上部消化管外科
92	外科と代謝・栄養 44(1):9-14,2010	中心静脈カテーテルによる遅発性血管損傷により胸水貯留・呼吸不全をきたした1例	稲葉 一樹	上部消化管外科
93	日本内視鏡外科学会雑誌 14(4):439-446,2009	直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術症例の直腸肛門機能	野呂 智仁	下部消化管外科
94	日本内視鏡外科学会誌 14(6):687-692,2009	腹腔鏡下手術で整復しえた Winslow 孔ヘルニアの1例	松岡 宏	下部消化管外科

小計 13 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
95	日本大腸肛門病会誌 63(1):6-14,2010	直腸肛門内圧検査値の評価に関する検討	野呂 智仁	下部消化管外科
96	日本外科学会雑誌 111(2):110-112, 2010	ストーマ造設手術の工夫	前田耕太郎	下部消化管外科
97	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:237	ストーマ脱出に対する簡便な治療法と成績	前田耕太郎	下部消化管外科
98	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:125	下部直腸・肛門管癌に対する肛門温存の適応、手技と成績	小出 欣和	下部消化管外科
99	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:290	下部直腸癌における側方リンパ節郭清有用性の検討	佐藤 美信	下部消化管外科
100	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:574	大腸癌肝転移に対する肝動注の成績	松岡 宏	下部消化管外科
101	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:455	直腸肛門内圧検査における手技と検査値の評価方法についての検討	野呂 智仁	下部消化管外科
102	第109回日本外科学会定期学術集会 2009 4月 福岡市 110:707	潰瘍性大腸炎における Thymidine phospholylase 発現の検討	安形 俊久	下部消化管外科
103	第95回日本消化器病学会総会 2009 5月 札幌市	大腸癌における術前血清 CEA および CA19-9 値測定の有用性	佐藤 美信	下部消化管外科
104	第34回日本外科系連合学会学術集会 2009 6月 東京 :509	完全直腸脱に対する術式選択と腹腔鏡下直腸固定術の工夫について	勝野 秀稔	下部消化管外科
105	第34回日本外科系連合学会学術集会 2009 6月 東京 :510	直腸腔瘻に対する外科的治療(Transvaginal anterior levatorplasty について)	小出 欣和	下部消化管外科
106	第34回日本外科系連合学会学術集会 2009 6月 東京 :512	直腸癌に対する外科治療の適応と最適な術式	前田耕太郎	下部消化管外科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
107	第 64 回日本消化器外科学会総会 2009 7 月 大阪市 :383(1113)	腹腔鏡下前方切除術の直腸切離と吻合におけるコツと工夫	花井 恒一	下部消化管外科
108	第 64 回日本消化器外科学会総会 2009 7 月 大阪市 :427(1157)	側方リンパ節転移を有する下部直腸癌に対する側方リンパ節郭清有用性とは？	佐藤 美信	下部消化管外科
109	第 64 回日本消化器外科学会総会 2009 7 月 大阪市 :425(1155)	腹膜偽寝粘液腫における治療法の検討	野呂 智仁	下部消化管外科
110	第 51 回日本消化器病学会大会 2009 10 月 京都市	大腸癌術後再発例の再発時期別特徴とフォローアップへの応用	佐藤 美信	下部消化管外科
111	第 47 回日本癌治療学会学術集会 2009 10 月 横浜市	歯状線より肛門側に下縁を有する直腸癌における鼠径リンパ節転移の検討	佐藤 美信	下部消化管外科
112	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :595	若年者における肛門疾患失禁の現状	前田耕太郎	下部消化管外科
113	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :586	当科におけるクローン病の外科的手術の適応とそのタイミング	花井 恒一	下部消化管外科
114	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :736	他臓器浸潤した直腸癌に対して術前化学放射線療法を施行した 11 例の検討	佐藤 美信	下部消化管外科
115	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :580	下部直腸・肛門管癌に対する内肛門括約筋切除を伴う肛門疾患温存術 (ISR) に対する手術手技の工夫と成績	小出 欣和	下部消化管外科
116	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :613	Bevacizumab 併用化学療法の治療成績とその位置づけについての検討	松岡 宏	下部消化管外科
117	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :657	大腸全摘、回腸囊肛門吻合術の経験と工夫について	勝野 秀稔	下部消化管外科
118	第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11 月 福岡市 :595	便失禁患者における Vector volume (3D Manometry) の検討	野呂 智仁	下部消化管外科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
119	第64回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11月 福岡市 :631	潰瘍性大腸炎と Thymidine Phospholylase の 発現と発現細胞に関する検討	安形 俊久	下部消化管外科
120	第64回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11月 福岡市 :653	Rectocele に対する外科的治療症例の検討	本多 克行	下部消化管外科
121	第64回日本大腸肛門病学会学術集会 2009 11月 福岡市 :758	高度リンパ管侵襲を示す進行大腸癌の臨床的 特徴について	塩田 規帆	下部消化管外科
122	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:325	下部直腸肛門管癌に対する外科解剖に基づいた ISR の適応と手術手技の工夫	小出 欣和	下部消化管外科
123	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:479	腹腔鏡下前方切除術におけるコツとピットホ ールに対する工夫	花井 恒一	下部消化管外科
124	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:487	Rectocele に対する Transvaginal anterior levatorplasty の手術手技	前田耕太郎	下部消化管外科
125	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:579	巨大後腹膜脂肪肉腫の1例	野呂 智仁	下部消化管外科
126	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:864	40歳未満で発症した若年者大腸癌の臨床病理 学的検討	佐藤 美信	下部消化管外科
127	第71回日本臨床外科学会総会 2009 11月 京都市:980	血管塞栓後に安全に摘出できた巨大小腸 GIST の一例	尾関 伸司	下部消化管外科
128	第22回日本内視鏡外科学会総会 2009 12月 東京 :494	腹腔鏡下直腸手術における問題点と工夫	花井 恒一	下部消化管外科
129	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテ ーション学会総会 2010 2月 京都市 :46	消化管ストーマの合併症と造設法	前田 耕太郎	下部消化管外科
130	第27回日本ストーマ・排泄リハビリテ ーション学会総会 2010 2月 京都市 :98	人工肛門閉鎖術における環状皮膚縫合法とそ の管理	升森 宏次	下部消化管外科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
131	第46回日本腹部救急医学会総会 2010 3月:273	腹腔鏡下大腸切除術における偶発症とその対策	升森 宏次	下部消化管外科
132	7 th Annual Meeting of MSPED & 3 rd Joint Meeting of MSCP 2009 Cairo	Structures of Internal Anal Sphincter and Longitudinal Muscles	Maeda K	下部消化管外科
133	7 th Annual Meeting of MSPED & 3 rd Joint Meeting of MSCP 2009 Cairo	Novel Local Procedure for a Loop Stomal Prolapse by Staple Device	Maeda K	下部消化管外科
134	The 43 rd World Congress of the ISS/SIC(ISW) 2009 Adelaide:375	Intersphincteric resection for very low rectal cancer	Maeda K	下部消化管外科
135	The 43 rd World Congress of the ISS/SIC(ISW) 2009 Adelaide:89	Significance of lateral lymph node dissection in Dukes C low rectal cancer for improving prognosis	Sato H	下部消化管外科
136	X XIV International Society of University Colon & Rectal 2010 Seoul:171	Local Correction of Transverse Loop Colostomy Prolapse by Stapler Device	Maeda K	下部消化管外科
137	X XIV International Society of University Colon & Rectal 2010 Seoul:254	Transvaginal Anterior Levatorplasty for Intractable Recto-vaginal Fistula	Maeda K	下部消化管外科
138	X XIV International Society of University Colon & Rectal 2010 Seoul:229	Prognostic Significance of Lateral Lymph Node Dissection in Dukes' C Low Rectal Carcinoma	Sato H	下部消化管外科
139	Vascular Lab 増刊 6:121-129,2009	急性肺血栓塞栓症	安藤 太三	心臓血管外科
140	Medicina 46(5):812-815,2009	慢性肺血栓塞栓症の治療	安藤 太三	心臓血管外科
141	Heart View 13(8):928-933,2009	肺血栓塞栓症の外科治療	安藤 太三	心臓血管外科

小計 11 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
142	日胸部臨床 68(12):1151-1161, 2009	肺高血圧症診療の最前線 外科的治療	安藤 太三	心臓血管外科
143	脳神経外科周術期 管理のすべて 547-556,2009	術後肺血栓塞栓症	安藤 太三	心臓血管外科
144	教育セミナーテキ スト(日本対外循環 技術医学会) 25:1-10,2009	血液生理学 「希釈と適正循環および血液凝固」	渡邊 孝	心臓血管外科
145	日本外科学会雑誌 110(5)別刷: 245-248,2009	胸部大動脈瘤の治療—現状と将来—2. Open Surgery(補助手段,手術成績,合併症) 1)弓部大動脈瘤	高木 靖	心臓血管外科
146	呼吸 28(11):1115-1120, 2009	慢性肺高血圧	佐藤 雅人	心臓血管外科
147	循環器科 66(6):602-607,2009	残存する大動脈解離に対する慢性期手術	金子 完	心臓血管外科
148	静脈学 20(2):37-42,2009	慢性肺血栓塞栓症術後 PCPS 導入症例の検討	佐藤 雅人	心臓血管外科
149	Surg Today 39:603-605,2009	Paraplegia following the emergency surgical repair of a non-ruptured symptomatic abdominal aortic aneurysm; Report of a case	Tochii M	心臓血管外科
150	Biochemical and Biophysical Research Communications, 383(4):480-484, 2009	Frequent overexpression of CADM1/IGSF4 in lung adenocarcinoma	Kitamura Y	呼吸器外科
151	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 137(6):1370-1376, 2009	Thoracoscopic sympathetic clipping for hyperhidrosis: Long-term results and reversibility	Sugimura H	呼吸器外科
152	現代医学 57(2):249-254,2009	最新の医療 胸腔鏡による肺がんの手術	須田 隆	呼吸器外科

小計 11 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
153	World J Surg 34:242-248,2010	Expression of Vascular Endothelial Growth Factor and Presence of Angiovascular Cells in Tissues from Different Thyroid Disorders	Itoh A	内分泌外科
154	Journal of Enzyme Inhibition and Medicinal Chemistry 24(2):524-530,2009	Thyroglobulin may affect telomerase activity in thyroid follicular cells	Hibi Y	内分泌外科
155	Breast Cancer Research 11(4):R48,2009	Alternative use of multiple exons 1 of aromatase gene in cancerous and normal breast tissues from women over the age of 80 years.	Utsumi T	乳腺外科
156	Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology. 113(3-5):195-201, 2009	Expression level of enzymes related to in situ estrogen synthesis and clinicopathological parameters in breast cancer patients.	Utsumi T	乳腺外科
157	PEPARS 28:1-6,2009	白唇瘻痕・キューピット弓の二次修正術	吉村 陽子	形成外科
158	日本形成外科学会 会誌 29(6):353-358,2009	頭蓋骨に発生した傍骨性骨肉腫の1例	大西 智子	形成外科
159	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery 63(8):1369-1374, 2009	Correlation of axillary osmidrosis to a SNP in the ABCC11 gene determined by the Smart Amplification Process (SmartAmp) method	Inoue Y	形成外科
160	形成外科 52(9):1073-1081, 2009	顎骨延長治療の問題点とその解決策 一骨延長によって生じる咬合崩壊を最小限度に留める一	奥本 隆行	形成外科
161	形成外科 52:S143-150,2009	眼瞼下垂症の治療	井上 義一	形成外科
162	日本形成外科学会 会誌 29(11)669-675, 2009	治療に難渋した sinus pericranii の治療経験	宮田弥千代	形成外科
163	Journal of Neuro-oncology 91(3):251-255,2009	Genetic characterization of adult infratentorial gliomas	Hirose Y	脳神経外科
164	Journal of Neuro-oncology, 95:307-316,2009	Inhibition of c-Jun N-terminal kinase enhances temozolomide-induced cytotoxicity in human glioma cells	Hirose Y	脳神経外科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
165	Journal of Neurosurgery 111:492-496,2009	cerebral tumor with extensive rhabdoid features and a favorable prognosis	Hirose Y	脳神経外科
166	Neurosurgical Review 32:495-499,2009	Early malignant transformation of a petroclival meningothelial meningioma	Hirose Y	脳神経外科
167	脳神経外科ジャーナル 18(5):394-400,2009	石灰化を伴う前頭葉嚢胞性脳腫瘍	川瀬 司	脳神経外科
168	脳卒中の外科 37(3):156-161, 2009	"Minimally invasive procedures" for the management of large and giant aneurysms: Our experience	Kato Y	脳神経外科
169	Neuromodulation: Technology at the Neural Interface 12(1):33-38,2009	Dorsal column stimulation (DCS) in persistent vegetative state (PVS)	Kanno T	脳神経外科
170	Journal of Neuroendovascular Therapy 3(1):10-16,2009	Thrombectomy with Soutenir for acute ischemic stroke patients unresponsive to intravenous recombinant tissue plasminogen activator	Omura M	脳神経外科
171	Journal of Neurosurgery: Pediatrics 3(2):94-100,2009	Ventricular reservoirs and ventriculoperitoneal shunts for premature infants with posthemorrhagic hydrocephalus: an institutional experience	Matsuyama J	脳神経外科
172	Journal of Japanese Congress on Neurological Emergencies 21(2):33-38,2009	Assessment of incomplete clipping of aneurysms intra-operatively by near-infrared indocyanine green-video angiography (NIICG-VA) integrated microscope	Imizu S	脳神経外科
173	The Journal of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research 20(3):682-688,2009	Efficacy of the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire(JOACMEQ) for Clinical Evaluation of Patients with Ossification of Posterior Longitudinal Ligament	Nakai S	整形外科
174	The Journal of Japanese Society for Spine Surgery and Related Research 20(3):709-712,2009	Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire: A Validity Study in Lumbar Disc Herniation Patients	Nakai S	整形外科
175	関節の外科 36(4):121-123,2009	関節リウマチに対する同日両側人工膝関節置換術の検討	伊達 秀樹	整形外科
176	関節外科 29(1):33-39,2009	【TKA 術後感染の治療戦略】各施設の治療方針と成績 藤田保健衛生大学における治療方針と成績	早川 和恵	整形外科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
177	日本関節病学会誌 29(1):59-65,2010	Vanguard™人工膝関節置換術における治療経 験・手術手技の注意点	早川 和恵	整形外科
178	CLINICAL CALCIUM 19(11):34-39,2009	関節マーカーによる変形性関節症の評価	森田 充浩	整形外科
179	Hip Joint 35:141-145,2009	同種骨を用いた人工股関節再置換術	安藤 謙一	整形外科
180	日本手の外科学会 雑誌 25(5):715-717,2009	母指MP関節拘縮に対する観血的授動術の治 療成績	重盛 香苗	整形外科
181	J.Endocrinol.Inves t. 33:395-400,2009	Effect of intermittenet treatment with human parathyroid hormone 1-34 in SAMP6 senescence-accelerated mice	鷺見 雄希	整形外科
182	Cardiovascular revascularization medicine 10(1):17-22,2009	Metal allergic reaction in chronic refractory in-stent restenosis	松永佳世子	皮膚科
183	Journal of Environmetal Dermatology and Cutaneous Allergology 3(1):32-41,2009	インプラント中の金属アレルギーによる皮膚 障害が疑われた 10 症例の検討	松永佳世子	皮膚科
184	Journal of Cosmetic Laser Therapy 11(4)216-219,2009	Syringoma of the face treated with fractional photothermolysis	秋田 浩孝	皮膚科
185	Journal of Environmetal dermatology and Cutaneous Allergology 3(2):78-85,2009	ストレスと免疫 アトピー性皮膚炎様モデル マウスを用いて	清水 善徳	皮膚科
186	皮膚の科学 8 増刊 12:687-689,2009	慢性ストレスは正常マウスより AD マウスに対 し、より多くの肥満細胞脱顆粒を引き起こし、 皮膚組織中のサブスタンス P を上昇させる	山北 高志	皮膚科
187	日本皮膚アレルギー ・接触皮膚炎学会 雑誌 3(2):86-93,2009	アトピー性皮膚炎セルフケア教育入院—その 実際と心身医学的側面からの検討—	山北 高志	皮膚科
188	Cell Transplantation 18:647-656,2009	Global expression profiles in 1-hour biopsy specimens of human kidney transplantation from donors after cardiac death.	Kusaka M	泌尿器科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
189	Journal of Urology 181:2326-2331, 2009	Increased Urinary Neutrophil Gelatinase Associated Lipocalin Levels in a Rat Model of Uppre Urinary Tract Infection	Ichino M	泌尿器科
190	日本移植学会雑誌 移植 44(特別号): S176-S181,2009	IV臓器移植の現状 4.膵臓 膵臓移植	杉谷 篤	泌尿器科
191	日本移植学会雑誌 移植 45(1):16-21,2010	特集—「免疫抑制剤」 膵臓移植と免疫抑制療法	杉谷 篤	泌尿器科
192	糖尿病 53(3):162-168,2010	本邦における膵腎同時移植が糖尿病神経障害、大血管障害、生活の質に及ぼす効果	杉谷 篤	泌尿器科
193	Transplantation Proceedings 42:1819-1821,2010	Histologic Studies of Islets of Langerhans in Transplanted Pancreata from Marginal Donors in Japan	Sugitani A.	泌尿器科
194	Gynecologic and Obstetric Investigation 68:239-247,2009	Analysis of Nitric Oxide Metabolism as a Placental or Maternal Factor Underlying the Etiology of Pre-Eclampsia	Nishizawa H	産・婦人科
195	Gynecol Obstet Invest 69(2):116-121,2009	CD9 Gene Variations Are Not Associated with Female Infertility in Humans	Nishiyama H	産・婦人科
196	The American Journal of Human Genetics 84(1):14-20,2009	Mutations of the SYCP3 Gene in Women with Recurrent Pregnancy Loss	Udagawa Y	産・婦人科
197	Journal of MEICAL ULTRASONICS 36(1):19-26,2009	Clinical features and characteristics of blood flow of uterine vascular abnormalities	Sekiya T	産・婦人科
198	Anticancer Research 29:561-566,2009	Favourable Prognosis with Modified Dosing of Docetaxel and Cisplatin in Japanese Patients with Ovarian Cancer	Udagawa Y	産・婦人科
199	International Journal of Gynecological cancer 19(8):1353-1357, 2009	The impact of Complete Surgical Staging Upon Survival in Early-Stage Ovarian Clear Cell Carcinoma	Udagawa Y	産・婦人科
200	Ophthalmic Surg Lasera Imaging. 40(3):331-335,2009	Intravitreal bimanual surgery for residual lens fragments and displaced crystalline lenses.	Tanikawa A	眼科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
201	眼科臨床紀要 2(4):331-334,2009	虹彩縫合を要した瞳孔散大症の3症例	中村 彰	眼科
202	眼科臨床紀要 2(8):735-738,2009	Acute zonal occult outer retinopathy における光干渉断層系 (OCT) 所見の経時変化	水口 忠	眼科
203	日耳鼻感染症誌 27:201-204,2009	百日咳抗体上昇を認めた成人慢性咳嗽の4症例	内藤 健晴	耳鼻咽喉科・気管食道科
204	Clinical Cancer Research 16(3):898-911,2010	Efficacy of Combining GMX1777 with Radiation Therapy for Human Head and Neck Carcinoma	Kato H	耳鼻咽喉科・気管食道科
205	耳鼻咽喉科臨床 102(10):795-803, 2009	超選択的動注化学療法	櫻井 一生	耳鼻咽喉科・気管食道科
206	口腔・咽頭科 22(1):49-54,2009	掌蹠膿疱症に対する扁桃摘出術の有効性	内藤 健晴	耳鼻咽喉科・気管食道科
207	Journal of Clinical Oncology 27(36):6213-6221, 2009	Comparative Prognostic Value of HPV16 E6 mRNA Compared with In Situ Hybridization for Human Oropharyngeal Squamous Carcinoma	Kato H	耳鼻咽喉科・気管食道科
208	Dysphagia 25:6-10,2010	Simple Swallowing Provocation Test has Limited Applicability as a Screening Tool for Detecting Aspiration, Silent Aspiration, or Penetration	加賀谷 斉	リハビリテーション科
209	Tohoku J. Exp. Med. 218:215-219,2009	Effective Home-Based Pulmonary Rehabilitation in Patients with Restrictive Lung Diseases	加賀谷 斉	リハビリテーション科
210	Jpn J Rehabil Med 46(8):527-533,2009	対麻痺者の新しい歩行補助ロボット WPAL (Wearable Power-Assist Locomotor) に関する予備的検討	清水 康裕	リハビリテーション科
211	Journal of Clinical Rehabilitation 18(5):475-481,2009	ポストポリオの実態	沢田光思郎	リハビリテーション科
212	Journal of Analytical Bio-Science. 32(4):313-319,2009	A three-year prospective study of the risk factors influencing bone mineral density and bone resorption among postmenopausal women.	片田 和広	放射線科

小計 12 件

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
213	Annual Review 神経 51-57,2009	256 列/320 列 面検出器 CT (ADCT)	片田 和広	放射線科
214	応用数理 19(4):50-64,2009	走化性を伴う腫瘍成長モデルとその数理	小林 英敏	放射線科
215	Ann Nucl Med 23(2):209-215, 2009	a report of the sixth nationwide survey in 2007.	外山 宏	放射線科
216	Int J Cardiovasc Imaging 25(8):765-775, 2009	¹²³ I-BMIPP and ^{99m} Tc-TF discordance on myocardial scintigraphy and it's correlation with functional recovery following acute myocardial infarction: role of conventional echocardiography.	外山 宏	放射線科
217	Radiology 250(1):202-211, 2009	Whole-brain perfusion CT performed with a prototype 256-detector row CT system: initial experience.	村山 和宏	放射線科
218	日本放射線腫瘍学会誌 21(3・4):165-168, 2009	前立腺がん密封小線源挿入療法における脱落線源紛失防止の検討	伊藤 文隆	放射線科
219	ペインクリニック 31:101-103,2010	ペインクリニック外来における代替療法の治療効果判定—Pain Vision を用いて—	木村 直暁	麻酔科 1
220	医工学治療 21:259-263,2009	手術時における容積脈波法とカテーテル法との血圧反応	山田 守正	麻酔科 1
221	藤田学園医学会誌 33:37-54,2009	全胚培養法を用いた A/J 系マウスの口唇裂発現におよぼす揮発性麻酔薬セボフルランの影響の検討	山田 守正	麻酔科 1
222	Journal of Critical Care 25:172.e1-172.c8, 2010	Body mass index is negatively correlated with respiratory muscle weakness and interleukin-6 production after coronary artery bypass grafting	Nishida O	麻酔科 2
223	ICU と CCU 34(2):93-94,2010	特集にあたって —歴史的流れと新しい modality,indication—	西田 修	麻酔科 2
224	ICU と CCU 34(2):139-146,2010	High Flow-Voiume Large Size PMMA-HDF(High performance HDF)の効果と適応	西田 修	麻酔科 2

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
225	Am J Med 122(6):566-573, 2009	Cystatin C in acute heart failure without advanced renal impairment.	石井 潤一	臨床検査科
226	J Atheroscler Thromb 16(4):410-418,2009	Association of serum oxidized lipoprotein(a) concentration with coronary artery disease: potential role of oxidized lipoprotein(a) in the vasacular wall.	石井 潤一	臨床検査科
227	日本臨床検査自動 化学会会誌 34(3):329-333, 2009	新しい心機能マーカーNT-proBNP 測定試薬「Dimension フレックスカートリッジ NT-proBNP PBNP」による NT-proBNP 測定の基礎的検討	石井 潤一	臨床検査科
228	Diagn Cytopathol 37(10):732-7, 2009	Tall cell variant of papillary thyroid carcinoma: Its characteristic features demonstrated by fine-needle aspiration cytology and immunohistochemical study.	Urano M	病理部
229	日本口蓋裂学会雑 誌 34(1):39-44,2009	藤田保健衛生大学病院口唇口蓋裂センター設立以来の診療実績について	佐藤 公治	歯科口腔外科

小計 5 件
合計 229 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを 100 件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長	星 長 清 隆		
管理担当者氏名	事務局長	木村 良人	安全管理室長	山田 治基
	総務部長	樋谷 全泰	感染対策室長	吉田 俊治
	人事部長	山田 一俊	薬剤部長代理	矢野 裕章
	医療事務部長代理 (入院医事課長)	原田 勝己		
	外来医事課係長	後藤 靖司		

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入 院治療計画書		総務課 外来医事課 入院医事課 各診療科 フィルム中央管理室 診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・外来カルテ・入院カルテ共に電子カルテ としています。 ・保存期間は、外来カルテは 10 年、入院カ ルテは 30 年としています。 ・X線写真は、中央管理しています。なお 一部は各診療科毎に保管しています。
病院 の 管 理 及 び 運 営 に 関 す る 諸 記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度医療の提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明 らかにする帳簿	外来医事課 入院医事課 薬剤部	
規則 第 1 条 の 1 第 1 項 各 号 及 び 第 9 条 の 2 3 第 1 項 第 1 号 に 掲 げ る 体 制	医療に係る安全管理のための指針 の整備状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員 会の開催状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員 研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の 医療に係る安全の確保を目的とし た改善のための方策の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う 者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配 置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の 設置状況	安全管理室	
	当該病院内に患者から安全管理に 係る相談に適切に応じる体制の確 保状況	安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	
	院内感染のための委員会の開催状況	感染対策室	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	感染対策室	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME管理室	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理室	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理室	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄にはこの記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務局長 木村 良人
閲覧担当者氏名	薬剤部長代理 矢野 裕章 総務部長 槌谷 全泰 人事部長 山田 一俊 医療事務部長代理 原田 勝己 (入院医事課長) 外来医事課係長 後藤 靖司
閲覧の求めに応じる場所	事務局 応接室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	62.3%	算定期間	平成 21年 4月 1日～平成 22年 3月 31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,208人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,013人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,104人
	D: 初診の患者の数		49,745人

- (注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：平成19年12月21日全文改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療安全に関する基本的考え方 ●医療安全管理に関わる組織及び体制 ●医療問題対策委員会、医療事故調査委員会および事故防止対策委員会の設置 ●安全管理室・安全管理専任者の設置 ●医療安全推進者（セーフティマネージャー）の設置 ●医薬品安全管理責任者の設置 ●医療機器安全管理責任者の設置 ●医療安全管理のための教育研修 ●報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 ●医療事故発生時の対応における基本的な考え方 ●患者への情報提供 ●患者相談窓口の設置 ●本指針の周知ならびに見直し、改正 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医療問題対策委員会（年12回） <ul style="list-style-type: none"> ◆医療事故及び医事紛争の予防対策の検討及び推進 ◆医療事故及び医事紛争への対応方法 ◆医療事故及び医事紛争の情報交換 ◆医療事故及び医事紛争の予防のための教育・研修 ◆安全管理室及び事故防止対策委員会からの提出議題 ◆患者相談窓口からの苦情、相談等に関する事項 ◆医療事故調査委員会、事例検討会における検討事項に関する対応 ◆その他、医療事故及び医事紛争に関する事項 ●事故防止対策委員会（年12回） <ul style="list-style-type: none"> ◆事故報告書の収集及び分析 ◆過去の事故発生状況の把握と調査分析 ◆発生後の患者の経過の把握 ◆事故防止に必要な安全対策の検討 ◆事故防止のための各指針の再検討・改善 ◆事故防止対策の現場への浸透・推進 ◆その他事故防止に関する事項 ●医療事故調査委員会（平成21年度3回） <ul style="list-style-type: none"> ◆重大な医療事故に関し、原因等を調査・検討する 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>全職員対象研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成21年 6月10日 藤田保健衛生大学倫理学 准教授 佐藤 芳 ●平成21年 6月19日 自治医科大学医学部医療安全学 教授 河野龍太郎 ●平成21年12月24日 藤田保健衛生大学病院 副院長 山田治基 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ● 安全管理報告に関し、検討指示書により報告部署からの改善を求める。 ● 事故防止対策委員会において改善策を検討する。 ● 事例検討会を開催し改善策を検討する。 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (1) 名 平成15年4月1日設置 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ● 医療に係る安全管理のための委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療に係る安全管理のための委員会の庶務に関する事 ● 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行なうこと ● 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認するとともに、必要な指導・支援を行うこと ● 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な時は協力すること ● 医療安全に係る連絡調整に関する事 ● 医療安全対策の推進に関する事 ● 安全管理報告の集計、分析に関する事 ● 医療安全に係る資料の収集に関する事 ● 院内死亡についての情報把握に関する事 ● セーフティマネージャーの活動の総括に関する事 ● 重大事故発生時の初動対応として、患者、家族への事故の説明や対応に関する事 	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	○・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 平成19年12月21日改正 <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対する基本的な考え方 2. 院内感染防止対策の組織に関する基本的事項 3. 院内感染防止対策のための研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 院内感染防止対策指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 感染対策実務委員会からの活動報告及び感染対策に関わる提案事項の検討 MRSA発生状況の報告と改善案の検討 結核発生報告とそれに対する事後措置案の検討 	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 院内感染に関する職員への啓発 ・ テーマ「新型インフルエンザによるパンデミックの状況と今冬の対策」 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成21年9月29日（それ以外にもビデオ講演11回開催） ・ テーマ「医療安全全部報告会」 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成21年12月24日（それ以外にもビデオ講演12回開催） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ●臨床微生物検査室より以下の報告をICT委員会が受ける体制を整えている <ul style="list-style-type: none"> ・MRSAの各病棟における週間、月間分離状況→診療連絡会にて各部門が情報共有する ・VRE、MDRP、O-157をはじめとする感染症法第1～5類に属する病原体が検出された時は、直ちに当該病棟及びICT委員会に報告をする。院内感染対策専任者は、適切な感染対策指導を行うと共に、感染症法に基づき届け出が速やかに行われるように指導する ・週1回多剤耐性菌及びコロストリジウム・デ・イフォルの検出された部署の一覧表をICT委員会に提出し、報告をする ・同一病棟、同一診療科あるいは病院全体で、同一菌種が多発性に検出され、同一病原体による感染症のアウトブレイクが疑われた場合には、直ちにICT委員会へ報告をする ●NICU、CCUにてBSIサーベイランス、胆・膵外科、皮膚科、泌尿器科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、下部消化管外科にてSSIサーベイランス、NCUにてVAPサーベイランスを行い、感染症の発生状況を把握している ●厚生労働省「院内感染対策サーベイランス」全入院患者部門、手術部位感染部門、集中治療部門に参加し、感染症発生状況を把握している ●年2回当院における臨床分離菌株薬剤感受性率をマニュアルに挿入している 	

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑ ・ 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な麻薬の取り扱いについて (7/30 全体) ・ 病棟での麻薬勉強会 (1/27 NICU、2/25 2-7、7/27 NICU, GCU) ・ 麻薬の安全管理 (6/14, 12/14 研修医) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (☑ ・ 無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> チェックリストを用い、薬剤部内・病棟を調査 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑ ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 薬剤情報提供用紙の作成について、市販ソフトを導入し、他剤や食品との相互作用についても記載 ② 薬品の適正使用情報が出された場合、その薬品を使用中の患者リストを作成し病棟担当薬剤師へ情報提供を行う ③ 安全管理室と共同で休薬期間が必要な薬剤の入力時にアラートメッセージを表示させる ④ ピッキングマシンのシステムに抗がん剤のレジメンチェック機能を作成しチェックする ⑤ 麻薬のコンピュータ入力を可能にし、実施入力を可能としチェックする ⑥ 入院患者持参薬の確認手順書を作成し実行 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑ ・ 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 38 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 2009年度実績（院内臨床工学技士が院内医療スタッフに対し実施した勉強会） 実施回数：38回、参加人数：延べ1,076名 （内容：人工呼吸器関連10回、除細動装置関連2回、輸液装置関連25回、その他ME機器1回） （参加職種：医師83名、看護師948名、その他医療職45名） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (☑ ・ 無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ◆2009年度実績（院内臨床工学技士が実施した点検作業） 人工呼吸器（使用後点検、定期点検、修理後点検、オーバーホール） …… 総計24,296件 …… 延べ8,350件 輸液・シリンジポンプ（使用後点検、定期点検、修理後点検） …… 延べ13,320件 PCAポンプ（使用後点検、定期点検、修理後点検） …… 延べ40件 除細動装置（定期点検、修理後点検） …… 延べ268件 低圧持続吸引器（使用後毎点検、定期点検、修理後点検） …… 延べ1,365件 経腸栄養ポンプ（定期点検、修理後点検） …… 延べ54件 IVHポータブルエコー装置（使用後毎点検） …… 延べ514件 生体情報モニター（定期点検、修理後点検） …… 延べ338件 その他の医療機器・生命維持管理装置（定期点検） …… 延べ47件 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑ ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ME管理室でのインターネット環境より外部（厚労省HP等）からの情報収集行う。また、医療機器メーカーからの直接的な情報提供に加え、可能な限り医療機器に関する安全情報を収集し、院内イントラネット（お知らせページ：ME管理室HP）に掲載し医療従事者に対し情報発信を行っている。また、医療機器の取扱い説明書、ME機器添付文書等は同ME管理室HPに掲載し、いつでも誰でも閲覧できる様にしている。 ME機器使用に際しての不具合やトラブル・破損等が発生した場合、指定書面（ME機器不具合・トラブル対応記録）へ記録し、ME管理室へ提出報告を行い、その原因・対策を使用現場にフィードバックを行っている。 上記の不具合発生原因を解析した結果、輸液ポンプの性能認識不足、操作の未熟性が考えられたため、全看護スタッフ対象に輸液ポンプ強化月間を組み、教育勉強会（参加者730名）を行った。 	